

保護者様

船橋市立田喜野井小学校
校長 下須賀 和実

「全国学力・学習状況調査」の分析について

大寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろより本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今年度4月に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、以下のようにまとめましたので、ご報告いたします。ご確認ください。なお、この分析は本校HPにも載せています。職員一同で情報を共有し、本校の教育活動にいかしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

1 調査内容（実施日：令和5年4月18日）

- ・6年生を対象とした学力調査（国語、算数）
- ・児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等の調査（児童質問紙）

2 調査の結果について

（1）国語に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ・本校全体の平均正答率は、千葉県平均・全国平均と比べやや下回る結果となっている。
- ・内容別に問題をみると、「読むこと」をやや苦手にしてきた。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力を伸ばしていく必要がある。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることも苦手としているが、「書くこと」は全国平均・千葉県平均を大きく上回っており、自分の考えを書くことを得意としていることから、理解した内容に基づいて自分の考えを持つ機会を今まで以上に学習の中で増やしていきたい。
- ・昨年度から全国平均をやや上回るようになった「話すこと・聞くこと」は今年度も同様の数値となった。これは、どの教科でもICT機器を活用した「伝え合い活動」を重視した授業を展開してきた成果だと考え、今後も継続して取り組んでいきたい。

（2）算数に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ・本校全体の平均正答率は、千葉県平均も全国平均も上回っている。
- ・形式別に問題を見ると、「記述式」の問題の無回答率が全国平均・千葉県平均に比べ低く、言葉や数を使って説明することに苦手意識がないことがわかる。これは、校内研究で「主体的に学び、自分の考えを持ち、表現する子」の育成を図った成果の現れだと考えられる。その一方で、「短答式」の問題をやや苦手にしてきた。「短答式」の問題は、反復練習がより重要となるため、各授業でしっかりと問題を解く時間を確保していきたい。
- ・領域別に結果を見ると「データの活用」「図形」を得意としている一方で、「変化と関係」に関する問題（特に比例と割合に関わる問題）を苦手にしてきたことがわかる。比例と割合に関する単元を学習する際には、しっかりと習熟を図る必要がある。

(3) 児童質問紙の結果にみられる特徴と現状分析

- ・生活習慣・学習習慣に関する質問では、肯定的な回答が多く、全国平均を大きく上回る数値となっている。児童質問紙の結果と問題の正答率をクロスして考察すると、朝食や就寝時刻などの規則正しい生活習慣や家庭学習の習慣が学力に結びつく結果が出ている。
- ・ICT機器の使用に関する質問事項は、例年同様、総じて高い使用頻度として回答されている。これは、校内で積極的にICT機器の活用を推進している成果だと考える。また、「学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」という質問に対して概ね肯定的な回答をしている一方で、数値は全国平均に比べやや劣るため、使用頻度だけでなく、活用の質を高めていきたい。
- ・「算数への関心等」に比べ、「国語への関心等」において数値がやや低い傾向がある。直近3年間の経年分析からも「国語への関心等」が低下傾向にあることがわかるため、今後は国語科を中心に児童の主体性をより引き出す授業にするための工夫を凝らしていく必要がある。
- ・学校以外での勉強や読書時間に関する質問事項では、「全くしていない」という児童も多い。ICT機器を有効活用しながら、学校と家庭が連携して学習・読書の環境を整えていく必要がある。

以上の分析をもとに改善の方策をまとめ、職員一同で情報を共有の上、今後の教育活動にいかしてまいります。